サルー
Salud!★15号
2014年4月15日

●キューバ友好円卓会議　通信
e-mail：cuba.entaku.0803@gmail.com
FAX　03－3415－9292　　http://cubaentaku.web.fc2.com/
〒157-0073　東京都世田谷区砧8-15-14-101

5月10日（土）
13:30～16:00

主催
キューバ友好円卓会議

キューバを見る 聞く 知る ８日間ツアー報告会

文京シビックホール会議室１（文京シビックセンター3階）

★会場は「コスタリカに学ぶ会」でとってあります。

〒112-8555　東京都文京区春日１－16－21　　TEL 03-3812-7111（文京区役所代表）
東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」下車徒歩１分／都営地下鉄三田線・大江戸線「春日駅」下車徒歩１分／ＪＲ総武線「水道橋駅」下車９分

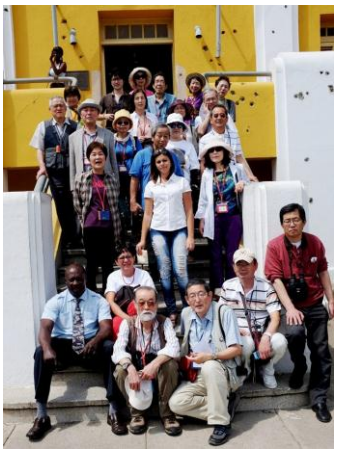
直に見たカリブの島国

Cubaの歴史と現実

参加費：1000円　※事前申し込みは必要ありません

♪どなたでも参加できます。お友達を誘ってご参加ください♪

↑ベネズエラのウーゴ・チャベス前大統領が笑顔でお出迎え。サンタ・クララのチェ・ゲバラ霊廟。右奥にゲバラの立像。



←サンチャゴ・デ・クーバのモンカダ兵営博物館の前で。壁の穴は銃弾の痕

↑サンチャゴ・デ・クーバの有機農場。手前は、オルガノ・ポニコと呼ばれる畑

ピカピカのオールドカー

写真提供：川島幹之

キューバ友好円卓会議は2014年３月６日～13日まで、「キューバを見る聞く知る８日間ツアー」を行いました。参加者は、円卓会議会員と募集に応じた方計21人でした。私ども一行を受け入れてくださったのはキューバ諸国民友好協会（ICAP）で、私どもが見学したい施設・遺跡等のリストを事前に提出し、ＩＣＡＰ側がそれに基づいて見学コースをアレンジするという形でツアーが実現しました。

ツアー参加者の職業、専門分野、関心のある分野などが多様だったため、私どもがＩＣＡＰにアレンジをお願いした行き先も実に多岐にわたり、結局、私どもが訪れた施設・遺跡等は医療、教育、有機農業、米軍基地、博物館、観光地など多方面に及びました。

訪れた地域も首都ハバナをはじめ東部のサンチャゴ・デ・クーバ、中部のサンタ・クララなど広範囲に及びました。このため、極めてハードなスケジュールとなりましたが、それだけに、かえって多角的な視点からこの国を観察することができました。

キューバ友好円卓会議は、今回のツアーで、名古屋在住の円卓会議会員の女性が「キューバに自転車を送る会」に託した寄付金を、サンタ・クララの産科病院に届ける役割も果たしました。病院では贈呈式が行われ、私どももこれに参列しました。

報告会では、参加者が撮影してきたビデオを上映し、それぞれが特に印象に残ったことを報告します。

問合せ：キューバ友好円卓会議　〒157-0073　東京都世田谷区砧８－15－14－101
FAX　03-3415-9292　　e-mail　cuba.entaku.0803@gmail.com

報告

キューバを見る 聞く 知る ８日間ツアー★2014 年 3 月 6 日（木）～13 日（水）

はじめてのキューバ訪問

杉本茂樹　埼玉県さいたま市

今回のキューバ友好円卓会議主催の「キューバを見る 聞く 知る ８日間ツアー」は、短期間で盛り沢山の参観をしたために、かなりのハード･スケジュールであった。

私たち一行は、各地のＩＣＡＰを訪問した後、総合診療所、小学校、有機農園、グアンタナモ基地、モンカダ兵営博物館、モロ要塞、ホセ・マルティ墓地、ラテンアメリカ医科大学、支倉常長像、トロピカーナ観劇、チェ･ゲバラ霊廟、装甲車襲撃記念碑などを参観してきた。その中で、印象に残ったいくつかを述べてみたい。

検問所をスルー･パス

ハバナからサンチャゴ・デ・クーバへ移動した私たちが、グァンタナモ基地へ向かう時のことであった。私たちが乗ったバスの前に１台の「黒バイ」（Police）が先導車となった。基地に近づいてきた頃、「皆さん、まもなく検問所です。パスポートを用意して下さい」と車内でアナウンスされた。そして、検問所に着くと､先導車「黒バイ」に乗る警察官が､検問所の兵士に手を振るだけで、そのまま走行し、私たちの乗るバスも車内検問を受けることなく、「黒バイ」にしたがって通過してしまった。その後の検問所もバスは停まることなく通過していった。成田空港の検問所を考えるとスルー・パスするのは気分が良い。これは「観光ＶＩＰ」としての慣行なのだろうか？

この時のバスのドライバーに「黒バイの先導をどう思いますか？」と尋ねた。その答えは「邪魔だ」であった。思いもかけない回答に少々戸惑ったが、真意は「自分で好きなように運転できないから」とのことであった。

途中の道路の両脇に広大な塩田が広がっていた。風と太陽が造り出す白い天然の塩が山積みになっているところもあれば､海水を入れたばかりと思われる場所もあった。輸出品の砂糖と共に､天然の塩も豊富に生産されているように思えた。

グアンタナモ湾。はるか彼方にグアンタナモ米海軍基地

グアンタナモ湾の米海軍基地近傍のホテルに到着した私たちは、ホテルの一室に基地の地形を象ったジオラマを前に米軍基地の概要について説明を受けた。その後、ホテルの屋上から基地を遠望したが、占領地の広大さは実感できるものの､施設類は霞んだようではっきりと見ることができなかった。広大なキューバの領地を１世紀以上にわたって占領し、１万人余の軍隊を駐留させ、軍法のみが適用される治外法権区域である。湾の入口側が占領されているために、現地漁民は出入りができないという。湾内で漁民が殺された事件も起きていると。沖縄の米軍占領と専横とが重なり、アメリカに対する怒りがこみ上げてきた。

フラッシュ･ライトを持たないエンジニア

サンチャゴ・デ・クーバからハバナのホテルに深夜近くに戻った時のことである。ホテルのエレベーターが故障していて動かない。重いバゲージを抱えた私たちは、５階まで自力で運ばなければならなくなった。その時、従業員の青年が荷物用のエレベーターで運んでくれることになった。９個のバゲージを積み込んだエレベーターは２階で止まってしまい、ドアが開かなくなってしまったのだ。そこで、エレベーター会社の関係者と思われる人物が呼び出されたが、すぐには開けることができなった。結局２階のエレベーターのドアを壊して強引に開け、何とかバゲージを取り出すことができた。だが、最後に取り出したバゲージはものの見事に押し潰されて破壊されてしまっていた。折角の青年の善意が裏目に出てしまったのだ。

私はこのバゲージの取り出し作業を手伝ったのだが、その場でキューバの実情の一面を見ることになった。それは、止まったエレベーターの中はライトもなく暗闇であったが、作業者の手元にはフラッシュ・ライトがないのである。

私はすぐに手持ちの小さなフラッシ･ライトで彼らの手元を照らすことになった。乾電池が不足していると聞いてはいたが、その現実を垣間見ることになったのだ。

ハード面のエンジニアにとって“フラッシュ・ライト”は必須のツールである。乾電池のようなものを一市民が自助努力で生み出すには限界があるであろう。これもアメリカによる経済封鎖が市民生活に及ぼしている現れだとの思いを抱いた。すべてのバゲージを取り出した後に、作業に呼び出された人物に私の持参したフラッシュ・ライトをプ

レゼントせずにはいられなかった。

リズミカルに踊るキューバの人々

私たち一行はある小学校を訪問した。児童たちは私たちのためにさまざまな踊りを熱演してくれた。その子どもたちの持って生まれたリズム感、肢体のしなやかさには、先住民･スペイン・アフリカと三つの民族のＤＮＡが受け継がれていることの証しだと感じられた。「これを見れば、もうトロピカーナを見なくてもいい」とどなたかが発していたほど、子どもとは思えない艶容な舞姫たちであった。

いま一つは、総合診療所を訪れた時のことである。一通り所内を見学してホールのような所で診療所の概要が医師から話された。その話が終わると、一人の青年が白衣を脱いで赤いＴシャツに黒いサングラスをかけて私たちの前に立った。小さなレコーダーから曲が流れると、狭いフロアーを縦横に駆使してリズミカルなステップで躍動感に溢れる見事な踊りを披露した。その動きが止まった時、ホールに人々の拍手が響き渡った。

「私たちには、歌い、踊り、笑い、愛する時間がある」（『父ゲバラとともに、勝利の日まで』より）と語った、チェ･ゲバラの長女アレイダ･ゲバラさんの言葉が実感を持って感じられた。開放感に満ちた人びとであればこそ、苦しい経済状況下で貧しくとも誇り高く生きていることを。

半世紀前の車が走る街

どの地域を訪れても、50 年代、60 年代のアメリカ車とロシア車が街路を走り回っている。どの車も年代を思わせないほど磨かれている。その上、黒煙を上げる乗用車も見かけない。黒煙を上げるのは古いバスとトラックだけであった。

不思議なのは、半世紀以上も前の車が、何故､錆びずに保たれているのか？　何故、黒煙をさほど出さないのか？など疑問が湧いてくるばかりであったが、尋ねてみると、自分たちで故障した部品を手作りしてしまうという。先のドライバー曰く「発明」していると。偶然だが、路上に止めた車のエンジンが丸ごと取り出されていた。そのエンジンを路肩において修理している現場を目にした。「必要は発明の母」の言葉を思い浮かべた。

どんなに堅牢にできた耐久消費財でも耐用年数には限度があると思う。だが、キューバではそれを感じさせない。逆に、日本をはじめ先進国と呼ばれる国々では、「モデル・チェンジ」と称して人々は買わされ続けている。これほど地球資源の浪費、無駄遣いはない。

人々の自力更生で、アメリカの経済封鎖を打ち破り、「人間のための社会主義」を築いてほしいとの願望を抱きながら、はじめて踏んだキューバの地を後にした。

スケジュール表

月日	現地時刻	訪問先
3月6日（木）	14:00	成田空港第１ターミナル Air Canada カウンター前集合
	17:00	AC002 便（機種B777-330）定刻発
	14:50	トロント空港着
	16:20	トロント空港発　AC1748 便
	19:55	ハバナ（ホセ・マルティ国際空港）着
		国営旅行社（アミスツール）のエメリアさん出迎え
	21:50	迎えのバスで空港を出発
	22:20	ホテル（Bela Habana）着。バーで夕食
3月7日（金）	2:15	ホテル出発
	2:35	ハバナ空港・国内線ターミナル着
	6:00	ハバナ空港発　7L８８４便(機種ATR-72)
	7:40	サンチャゴ・デ・クーバ空港着
	8:20	空港からのバス出発
	8:35	San Juan Hotel 着
	8:50	ホテル出発
	9:10	サンチャゴ・デ・クーバ州 ICAP 訪問
	10:40	Ramon Lopez Pena Polic l inico（総合診療所）訪問
	12:20	Matamoros Restaurant で昼食
	14:45	小学校（Internado de Primaria）訪問
	17:30	ホテル着。夕食
3月8日（土）	8:40	ホテル出発。グアンタナモへ
	10:05	グアンタナモ州 ICAP 訪問
	10:35	有機農園見学
	12:00	「黒バイ」（Police）の先導で Caimanera Hotel へ
		同ホテルの屋上からグアンタナモ基地を遠望
	14:15	Caimanera ホテル出発
	18:30	San Juan Hotel 着
	19:45	レストラン・ZunZun で夕食
	22:15	ホテル着
3月9日（日）	7:30	朝食　（本日よりサマータイム）
	9:40	シボネー農場（カストロ革命軍集結の地）見学
	10:55	モンカダ（Moncada）兵営博物館見学
	12:35	モロ（Morro）要塞見学　　レストランで昼食
	16:00	サンタ・イフィヘニア（Santa Ifigenia）墓地見学
		ホセ・マルティ（Jose Marti）墓・衛兵の交替見学
	18:10	サンチャゴ・デ・クーバ空港着
	20:40	空港発　CU987 便（機種：Antonov 158）
	21:50	ハバナ空港着
	22:30	ホテル（Bela Habana）着
	22:40	旅行鞄が荷物用エレベーターに挟まる。旅行鞄一つ大破
3月10日（月）	8:40	ホテル出発
	9:30	ラテンアメリカ医科大学訪問
		医学生の教育体系のレクチャーと校内見学
	13:00	昼食（中華料理店・多寶樓）
	15:05	革命広場散策
	16:00	ICAP 本部訪問。アリシア ICAP 副総裁と会談
	18:10	支倉常長像等見学
	19:00	旧市街の運河近くのレストランで夕食
	21:45	トロピカーナ観劇
	24:00	ホテル着。（エレベーターに４人閉じ込められる）
3月11日（火）	8:10	ホテル出発
	12:00	サンタ・クララ州 ICAP 訪問。同所で昼食
	14:10	産婦人科病院訪問・寄付金贈呈式（★次ページ参照）
	15:30	チェ・ゲバラ霊廟参観
	16:45	装甲車襲撃記念碑見学
	17:25	Caneyes Hotel で延泊組とお別れ
	22:00	ホテル着。ホテルのバーで夕食
3月12日（水）	5:30	ホテル出発
	8:37	ハバナ発　AC1749（機種・Embraer 190）
	11:40	トロント空港・降雪中の滑走路に着陸
	13:40	トロント発・AC001（機種B777）・定刻より遅れて出発
	14:10	滑走路の変更後、離陸
3月13日（木）	17:20	成田空港着
	18:00	解散

寄付金を産科病院へ

加藤玲子
キューバ友好円卓会議事務局／キューバに自転車を送る会

筆者

サンタ・クララ市のマリアナ・グラハレス産科病院へ、寄付金 800 万円を届けました。「キューバに自転車を送る会」の会員の方が、キューバの皆さんに使ってほしいと送金してくださったものです。優先順位があるでしょうから、ご自由に使ってくださいとのことでした。（右の「お手紙」参照）

大金ですし、この御厚意に応えるためには、どのように使われたかしっかりとご報告したいと思い、ビジャ・クララ州ＩＣＡＰ（諸国民友好協会）や友人に相談し、年間平均 6000 人の赤ちゃんが誕生するというこの産科病院の設備環境改善プロジェクトに寄付することに決めました。

お母さんたちのケアや赤ちゃんたちの幸せのためにお金が使われることになり、寄贈者の方にも喜んでいただきました。

さて次は、このお金をどのようにキューバに届けるかが問題でした。大使館に相談したところ、そんな大金は持って入れないと言われてしまい、振込先口座を問い合わせても、なかなか返事をもらえませんでした。出発直前に、この機会を逃してはいけない、現金で持って行く！　と決意しました。

今回の訪問団の参加者は 21 名でしたので、ほぼ全員の方に分配して持って行ってもらいました。皆さんのおかげで無事に役目を果たすことが出来ました。産科病院では、贈呈式の準備を整えて待っていてくれました。

今後キューバ訪問の際には、この病院を訪ね、関係を深めていきたいと思っています。

円卓会議からの贈呈品と贈呈先（一部を紹介）

贈呈品	贈呈先
血圧計	サンチャゴ・デ・クーバ　ポリクリニコ サンタ・クララ　医学校
デジタルカメラ	サンチャゴ・デ・クーバ　ICAP サンクトスピリティス　ICAP ハバナ　ICAP サンタ・クララ　ICAP
メモリーカード USB メモリー	サンチャゴ・デ・クーバ　ICAP サンクトスピリティス　ICAP ラテンアメリカ医学校
ポケットラジオ	グアンタナモ　ICAP
タブレット	ラテンアメリカ医学校
懐中電灯	グアンタナモ　有機農園
千代紙、鉛筆、色鉛筆、クレヨン、ノート	サンチャゴ・デ・クーバ　小学校
SD カード	ハバナ　ICAP サンタ・クララ　ICAP

寄付金のお手紙

先日は、わざわざキューバ大使館のハリケーン義援金の領収書を有難うございました。

最近、たまたま思わぬ事から大きなお金が手に入りました。私としては予想外の事でしたのでいろいろ考えましたが、もう 70 代半ばになって欲しい物は何一つありませんし、残すべき家族も居りませんので、キューバの皆さんに使って頂く事が一番良いと考えました。

いつぞやもテレビで、世界遺産の修復に汗を流している青年の姿を映しておりましたが、そういう事に使って頂いてもいいですし、他の事に使って頂いても構いません。優先順位がおありでしょうからご自由にお使いください。

このお金は、言ってみれば不労所得で、私が汗水たらして貯めたお金ではありませんので、くれぐれもお気になさらないでください。本日 800 万円を振り込みました。

2013 年8月 26 日　キューバに自転車を送る会会員（匿名）

キューバの皆さんへ

私は 1960 年頃、キューバ革命の本を読んでカストロさんに出会い深い感動を覚えた人間です。

日本の新聞には殆んどキューバの記事は載りませんが、その時以来、キューバはとても気になる国になりました。

他国の多くの指導者が晩節を汚してゆく中で、カストロさんは常に変わらず、弱い立場の人々のために闘う姿勢を貫いています。そこには、まったく私利私欲がありません。

戦争にしても自然破壊にしても、つきつめると人間の欲がなせる業だと私は思います。

教育と医療という人間にとって一番大切な事を全ての国民が平等に受けられるキューバ。お金ではなく何よりも人間の尊厳と自然を大切にしているキューバは世界のお手本だと思います。

キューバの皆さんは米国の経済封鎖で厳しい生活を強いられていると思うのですが、どうか負けないで下さい。
キューバは私にとって希望の星なのです。

2014 年2月 16 日　キューバに自転車を送る会会員（匿名）

BOOK 『キューバ医療の現場を見る』

キューバ友好円卓会議編／1600 円＋税
【申込先】同時代社 TEL：03-3261-3149 FAX：03-3261-3237

大賀達雄　キューバ友好円卓会議事務局長

日本では、キューバの医療については、ほとんど紹介されていない。キューバは、医療や教育に力を入れ、国民に無料で提供する体制を作っている。

キューバを長年支援してきたソビエトの崩壊後、国民の生活がどん底になった時でも、医療や教育の体制を維持し、途上国への医療支援や医学教育への提供を行なっている。こんなキューバの医療の現状を見てみたいと思って、キューバに関心を持つようになって随分時がたつ。

今回出版したキューバ友好円卓会議編集の本書は、2008 年2月円卓会議主催の「キューバ医療ツアー」の現地報告を中心に、医療制度や医療支援の現状がまとめられている。執筆者は、総勢35人からなる訪問団の中の8人の医療関係者によるものである。

キューバの医療・保健は地域の住民が利用できる身近なコミュニテイから地区へと繋がる合理的なシステムが構築されているばかりか、それを支える人的な資源にも恵まれており、優れて機能的と思われる。精神医療においても、精神障害者を入院病棟ではなく、地域の保健センターを多数作って、出来るだけ入院をさせない方針で、地域ケアに力を入れている。

少しでも多くの方に、キューバの医療、教育に目を向けてもらいたいと思っている。それはまた、日本の医療、教育に対する関心を喚起するものでもあると思うからである。